

平成30年度事業実施状況及び 令和元年度事業実施予定

〔文化芸術振興課〕

1 平成30年度事業実施状況

(1) 文化振興事業

ア 文化祭の実施

市民文化の振興を図るため、高松市市民文化祭アーツフェスタたかまつ2018を開催し、文化活動の発表の場を作るとともに、関係団体の相互交流及び作品鑑賞の機会づくりに努めた。

また、各地域コミュニティセンター等を中心に、地区文化祭を実施した。

○市民文化祭「アーツフェスタたかまつ2018」

(ア) 期間 平成30年5月26日(土)～7月1日(日)

(イ) 内容 オープニング事業、コンサート(クラシック、邦楽等)、ダンス(フラダンス、フラメンコ等)、日本舞踊、民謡、演劇、和太鼓演奏、美術展など、オープニング1事業、主催15事業、後援3事業

(ウ) 鑑賞者数 計9,066人

イ 文化団体の育成・活動助成

各分野における文化関係の団体の自主的な運営並びに広く市民に公表する文化団体の自主的な事業に対して助成を行った。

- ・文化芸術活動の一部助成
- ・文化事業の共催・後援
- ・「文化たかまつ」の編集・発行助成

ウ 高松市文化奨励賞の贈呈

高松市文化芸術振興計画(平成27年3月策定)に基づき、高松市文化奨励賞については、新人部門、顕彰部門の2つの部門で選考した。

【新人部門】

なし

【顕彰部門】

篠田豊智恵(箏・三絃)／大山まゆみ(音楽：ピアノ)

エ 優良芸術の鑑賞

(ア) 学校巡回芸術教室

小・中学校の児童・生徒を対象に、文化団体の協力を得て、生の優良芸術を鑑賞・体験する機会を提供した。

- a 開催時期 平成30年6月～11月
- b 開催校 17校
- c 鑑賞者数 9,147人

(イ) 学校巡回能楽教室(能楽、狂言、囃子)

小・中学校の児童・生徒を対象に、生の古典芸能を鑑賞する機会を提供した。

- a 開催時期 平成30年10月

- b 開催校 6校
- c 鑑賞者数 2, 650人

(ウ) デリバリーアーツ事業

音楽・舞踊等を出前することによって、広く市民に身近で、文化芸術に触れることのできる場を提供した。

- a 対象 一般
- b 内容 瀬戸フィル音楽会、太鼓演奏会、古典落語、金管五重奏、尺八コンサート、糸あやつり人形劇、サーカスキャラバン7メニューで実施。
- c 開催時期 平成30年7月～12月
- d 開催箇所 16か所（さぬき市、東かがわ市開催各1か箇所を含む）
- e 鑑賞者数 2, 240人

(エ) 劇団四季ミュージカル「こころの劇場」開催事業

子どもたちの心に「生命の大切さ」、「人を思いやる心」、「信じあう喜び」など、人が生きていく上でもっとも大切なものを舞台を通じて語りかける、一般財団法人舞台芸術センターと劇団四季による公演を瀬戸・高松広域連携中枢都市圏内の児童を対象に実施した。

- a 実施日 平成31年2月13日（水）・14日（木）・15日（金）各2回公演（13日のみ1回公演）
- b 場所 サンポートホール高松 大ホール
- c 内容 劇団四季ミュージカル「王様の耳はロバの耳」の公演
- d 参加者 市内及び周辺1市5町（さぬき市・土庄町・小豆島町・三木町・直島町・綾川町）の小学校6年生及び引率教員等 5, 144人

オ 音の祭り

邦楽を中心とした水準の高いコンサートを開催することで生の文化芸術に触れる機会を提供した。

- (ア) 開催時期 平成30年9月23日（日）
- (イ) 開催場所 高松国分寺ホール
- (ウ) 鑑賞者数 450人
- (エ) 出演者 伊藤多喜雄、讃岐国分寺太鼓保存会、讃岐国分寺子供太鼓

カ ものづくりふれあい教室

小・中学校の児童生徒を対象に、手づくりでものづくりにチャレンジしながら、いかにものが大切かを体験し、文化の創造に関心を深める機会を提供した。

- (ア) 開催時期 平成30年7月～31年3月
- (イ) 内容 洋裁、和裁、マスコット人形づくり、手芸など
- (ウ) 参加者数 15校（16回） 760人

キ 地域文化事業推進補助

NPO法人アーツカウンスル高松が行う次世代を担う人材育成を目指した事業等の一部を助成し、地域における文化活動のすそ野拡大と幅広い事業の展開を支援した。

ク 瀬戸内国際芸術祭推進事業

瀬戸内国際芸術祭の谷間期間として、関係市町、公益財団法人福武財団等とともにART SETOUCHI 2018を開催した（通年）。

また、第4回目となる瀬戸内国際芸術祭2019の開催に向け、実行委員会が取りまとめた実施計画に基づき準備を行った。

ケ 高松国際ピアノコンクール事業

平成29年度に開催した、国際音楽コンクール世界連盟加入後初めてとなる第4回コンクールの成功を踏まえ、第5回の開催に向けて機運を高めるため、学校訪問リサイタル等の推進事業に取り組んだ。

コ 0才からのコンサート事業

0才から3才くらいまでの子どもと一緒に保護者（妊婦を含む）が楽しめるクラシック・コンサートを実施した。

(ア) 開催時期 平成30年5月12日（土）、11月3日（土）、平成31年1月20日（日）、3月10日（日）

(イ) 開催場所 瓦町FLAGアートステーション、高松市こども未来館、香南コミュニティセンター、牟礼コミュニティセンター

(ウ) 鑑賞者数 361人

(エ) 出演者 瀬戸フィルアンサンブル

サ アートディレクター推進事業

文化芸術を軸にプランニングできる人材として、演劇家である多田淳之介氏をアートディレクターとして委嘱。市内の文化芸術団体とのネットワーク作りを行うこととし、平成28年度末からアートステーションを拠点として、地域におけるアートを軸としたワークショッププログラムの開発、実践、人材育成を目指し「高松ワークショップLab.」を発足した。

平成30年度は、アートディレクターの任期最終年度であったことから、その総仕上げとして、小学生による演劇ワークショップ「高松ステージキッズ ゆめのまちへきてみまい!」を実施した。

シ アーティスト・イン・レジデンス事業

(ア) 高松アーティスト・イン・レジデンス

市内の活用されていない資源（空き家、廃校、商店街の空き店舗等）を活用し、国内外から招聘した2組のアーティストが一定期間滞在しながら、地域のつながりの中で作品制作を行うことで、地域との協働を生み、地域に賑わいをもたらすとともに、アートの普及や若手アーティスト等の育成を図った。

アーティスト	アートチームODEN (廃材アート)	スペース・ノット・ブランク (舞台芸術・パフォーマンス)
タイトル	新生物「はいぶう」を高松で育てる	原風景
滞在期間	14日間	49日間

場所	高松シンボルタワー	高松市美術館
来場者数	263人	287人

(イ) 大島アーティスト・イン・レジデンス

県内外の小学生・中学生が大島で宿泊しながら、ハンセン病の歴史を学ぶとともに、アーティストによる音楽や演劇、美術のワークショップに参加する「大島に行こう！アートと自然を楽しむサマーキャンプ」を実施した。

ス まちなかパフォーマンス事業

音楽やパフォーマンスなど文化芸術による交流を創出し、都市ブランドを高めるため、人々の交流、まちの活性化を図った。

(ア) 観覧者数

- (a) TAKAMATSU MUSIC BLUE FES 26, 900人
- (b) サポートオータムジャム 1, 600人
- (c) 高松フラストリート 12, 600人
- (d) 街クラシック in 高松 1, 650人
- (e) 高松大道芸フェスタ 66, 060人

(2) 文化芸術ホール

ア 文化芸術ホールの管理運営

(公財) 高松市文化芸術財団を文化芸術ホールの指定管理者として、当該ホールの効果的な管理運営に努めた。

イ 文化芸術ホールの自主事業

文化芸術ホールの指定管理者である(公財)高松市文化芸術財団が実施する自主事業に要する経費の一部を補助することにより、文化芸術の振興・普及事業の推進に努めた。

主催事業(補助対象11事業)

(単位:人)

公演名	使用ホール	入場者数
オリジナルミュージカル 「ザ・デイサービス・ショウ」	大ホール	756
音楽の絵本 ～親子のためのクラシックコンサート～	大ホール	1,328
小曾根真 THE TRIO クリスマスツアー	大ホール	829
宝くじ まちの音楽会 「南こうせつ with ウー・ファン心のうたコンサート」	大ホール	1,407
NHK全国放送公開番組 「のど自慢」全国生中継	大ホール	1,200
春風亭一之輔 独演会	第1小ホール	297
ワンコインコンサート vol.1	第1小ホール	254

ワンコインコンサート vol.2	第1小ホール	273
瀬戸フィルハーモニータイムコンサート	第2小ホール	255
Shion と学ぼう 中高生のための木管楽器クリニック	リハーサル室等	57
演劇どっどこむ (ワークショップ)	リハーサル室	20
計		6,676

共催事業 (4事業)

(単位:人)

公演名	使用ホール	入場者数
加藤登紀子ほろ酔いコンサート	大ホール	700
第12回わくわくコンサート	大ホール	1,200
小学校招待公演「こころの劇場」	大ホール	5,144
第5回「香川吹奏楽の日」演奏会	大ホール	1,100
計		8,144

基金事業 (4事業)

(単位:人)

公演名	使用ホール	入場者数
こどもの日のこどものためのコンサート	第2小ホール	390
夏休み親子で楽しもうサンポートホール施設見学会		91
音楽お届け便	市内文化施設	332
第8回サンポートホール高松『デビューリサイタル』	第1小ホール	461
計		816

(3) 高松国分寺ホール

ア 高松国分寺ホールの管理運営

日本管財・JTB コミュニケーションデザイン共同事業体を高松国分寺ホールの指定管理者として、当該ホールの効果的な管理運営に努めた。

イ 高松国分寺ホールの自主事業

高松国分寺ホールの指定管理者である日本管財・JTB コミュニケーションデザイン共同事業体を実施する自主事業に要する経費の一部を補助することにより、市民の創造的な文化芸術活動の推進と交流を図り、市民文化の発展の推進に努めた。

平成30年度から、新たにIKODE瓦町へのアウトリーチに取り組み、本市が所管する文化施設同士の連携を推進している。

公演名	入場者数
① ステージコレクション	

国分寺マルシェ 他7事業	計4,165
② 文化講演会 お片付けセミナー 他4事業	計468
③ コンサートシリーズ ルルの音楽フェス 他1事業	計258
④ 伝統芸能事業 国分寺寄席 他4事業	計1,020
⑤ ファミリーシアター アニメフェスティバル 他11事業	計2,820
⑥ 文化教養講座 講演会「いのちのお話」 他7事業	計333
⑦ レクチャーコンサート JAZZ入門コンサート 他2事業	計650
⑧ ピアノリレーコンサート	70
⑨ こどもアートワークショップ 夏休み親子工作教室	50
⑩ バックステージツアー	10
⑪ アウトリーチ活動 かわらまち寄席 他1事業	計270
計	10,114

(4) 瓦町アートステーション

平成27年10月23日の瓦町FLAGグランドオープンに合わせて、8階に整備した市民交流プラザIKODE瓦町内に開所した。市民アート広場として多目的な空間やギャラリーを設置するとともに、市民の文化芸術活動及び交流を図るとともに中心市街地のにぎわい創出のため、多目的スタジオ、練習用スタジオ、クリエイティブルーム及びギャラリーの市民等への貸館を実施している。

2 令和元年度事業実施予定

事業名	事業内容	予算額(千円)	備考
第2期高松市文化芸術振興計画策定事業	高松市文化芸術振興条例に基づき、本市における文化芸術の振興施策を総合的かつ計画的に推進するための「高松市文化芸術振興計画」が平成30年度で期間満了となったため、次の5年度間を計画期間とする「第2期高松市文化芸術振興計画」を策定する。	564	
瀬戸内国際芸術祭開催事業	<p>文化芸術の振興と、瀬戸内の活性化や地域振興、世界に向けての情報発信に寄与するため、現代アートの作家や建築家と協働する国際的な芸術祭と位置づけて、県・関係市町及び福武財団等とともに瀬戸内国際芸術祭2019を開催する。</p> <p>本市としても、瀬戸内国際芸術祭高松市庁内推進本部を中心として、芸術祭の成功に向け、積極的な取組みを進める。</p> <p>【開催期間】 春会期 4/26～5/26 夏会期 7/19～8/25 秋会期 9/28～11/4</p> <p>【会場】 直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、沙弥島、本島、高見島、粟島、伊吹島、高松港・宇野港周辺</p>	82,196	
まちなかパフォーマンス事業	<p>市民の文化芸術への関心を高めるとともに、まちかどに芸術のあふれる「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、サンポート高松や丸亀町商店街などで、アートに関連した各種イベントを実施する。瀬戸内国際芸術祭の開催年であるため、一部事業を拡充して実施する。</p> <p>【予定事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかコンサート事業 <ul style="list-style-type: none"> ①TAKAMATSU MUSIC BLUE FES ②サンポートオータムジャム ③高松フラストリート ④街クラシック in 高松 ・たかまつ大道芸フェスタ事業 	10,000	

事業名	事業内容	予算額(千円)	備考
文化芸術活動助成事業	<p>地域に根ざした創造的な文化芸術の振興と発展に寄与することを目的に、「高松市文化芸術活動補助金交付要綱」を定め、市内に所在又は、活動の本拠を有する文化芸術団体が、市内において文化芸術活動を広く市民に公表する事業の一部を補助することで、市民の自主的な文化芸術活動を促進する。</p> <p>また、通常の文化芸術活動事業に比べて、その内容や規模を拡充して実施する記念・周年事業に対する補助も引き続き実施する。</p>	7,111	
文化奨励賞事業	<p>本市を中心に活動し、本市における文化の振興に貢献し、将来においてさらにその活躍が期待される方を選考し、顕彰部門（2名以内）・新人部門（2名以内）の2部門に分けて表彰する。</p>	587	
市民文化祭事業	<p>文化芸術団体等の発表の場と相互交流の機会を提供するため、市民自らが主体的に文化芸術事業を企画・実施する市民企画提案型事業「アーツフェスタ」の開催と、各地区の特性を生かした公民館活動等の学習発表や作品展示を行う合併町地区の文化祭の開催を支援する。</p> <p>アーツフェスタたかまつ2019は、5月25日から7月7日まで開催した。</p>	7,601	
デリバリーアーツ事業	<p>市民の希望するところに音楽、舞踊、古典芸能等の文化芸術を出前して、市民が身近なところで優良な文化芸術に触れる機会を提供する。</p> <p>市内では、クラシック音楽会、太鼓演奏会、落語寄席、ブラスバンド、トランペット・チェロ・ジャズピアノのトリオ、三味線、フルート&ピアノデュオの7メニュー15公演で開催予定。</p> <p>瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の連携事業として、さぬき市、東かがわ市、綾川町でも公演予定。</p>	4,033	
学校巡回芸術教室・能楽教室事業	<p>小・中学生の情操教育の一助とし、健全育成に資するため、学校巡回形式で、生の優良な芸術や古典芸能を鑑賞し、体験する機会を提供する。</p>	6,449	
ものづくりふれあい教室事業	<p>小・中学生を対象に、ものづくりにチャレンジしながら、文化の創造に関心を深め、いかにものが大切かを体験する機会を提供する。</p>	480	

事業名	事業内容	予算額(千円)	備考
0才からのコンサート事業	0才から3才くらいまでの子どもと一緒に保護者(妊婦を含む)が楽しめるクラシック・コンサートを実施する。年間4回開催予定である。	1,000	
音の祭り開催事業	邦楽の要素を取り入れた水準の高いコンサートを開催することで、生の文化芸術に接する機会を提供する。 令和元年度は、AUN J CLASSIC ORCHESTRAのコンサート等のプログラムを予定しており、9月29日に高松国分寺ホールで開催予定。	1,900	
劇団四季ミュージカル「こころの劇場」開催事業	劇団四季による「こころの劇場」ミュージカル公演を開催し、瀬戸・高松広域連携中枢都市圏内の児童を招待し、優良な文化芸術鑑賞の機会を提供する。 公演は、令和2年2月19日(水)～21日(金)の3日間5公演を予定しており、高松市、さぬき市、土庄町、小豆島町、三木町、直島町、綾川町及び附属高松小学校の小学生を対象とする。	1,133	
文化芸術ホール管理運営事業	文化芸術の拠点施設であるサンポートホール高松の指定管理者である公益財団法人高松市文化芸術財団に施設管理や、情報誌発行、ホームページの運用、ホール等を利用した創造発信・人材育成・舞台鑑賞・参加交流・教育普及などの各種事業を行わせることで、本市における文化芸術の振興普及を図る。	581,605	
【新規】文化芸術ホール開館15周年記念事業	本市の文化芸術の核であるサンポートホール高松において、開館15周年記念事業を実施する。 より多くの市民が集い、楽しめるホールを目指すとともに、教育文化施設、市民文化団体等とも連携し、20周年を見据えた取り組みを推進する。	5,000	
高松国分寺ホール管理運営事業	西部地域の新たな文化芸術の創造拠点として整備した高松国分寺ホールの指定管理者である日本管財・JTBコミュニケーションデザイン共同事業体に、施設管理、自主事業などを行わせることで、本市の創造的な文化芸術活動の推進と交流を図る。	40,440	
高松国際ピアノコンクール推進事業	第4回高松国際ピアノコンクールの成功を踏まえ、同コンクールの審査員・入賞者等のリサイタルや公開レッスン、地域での無料演奏会等を実施し、今後とも、より市民に親しまれ、地域に育まれていくコンクールとなるよう事業を推進する。	2,540	

事業名	事業内容	予算額(千円)	備考
高松アーティスト・イン・レジデンス事業	瀬戸内国際芸術祭の開催年度は実施しない。		
大島アーティスト・イン・レジデンス事業	県内外の小中学生が大島でサマーキャンプをしながらハンセン病の歴史を学ぶとともに、アーティストによる音楽、演劇、美術等のワークショップに参加する事業を実施する。最終日の成果発表会は、瀬戸内国際芸術祭2019のイベント作品となっている。	2,000	
さぬき映画祭事業	香川県、宇多津町、綾川町等とともに実行委員会に参画し、映画上映やゲストトーク、著名な監督など映画制作関係者の招聘、演劇公演を行うことで、地域文化の振興及び地域の活性化を図る。	1,000	
瓦町アートステーション管理運営事業	ことでん瓦町ビル8階を高松市が市民交流プラザ IKODE 瓦町として整備し、その一部を文化芸術の活動スペースとして貸館等の管理運営を行うことで、交通の結節点において創造的な文化芸術活動の推進と交流を図る。 引き続き、高松国分寺ホールとの連携を推進するほか、文化芸術ホールとの連携にも新たに取り組んでいく。	12,039	

〔文化財課〕

1 平成30年度事業実施状況

(1) 史跡高松城跡（玉藻公園）

ア 玉藻公園の管理運営

香川県造園事業協同組合を玉藻公園の指定管理者として、玉藻公園の効果的な管理運営に努めるとともに、平成28年度から利用料金制を導入した。

イ 披雲閣耐震診断

重要文化財披雲閣の耐震補強を行うため、29年度から3か年を予定して耐震診断を行っており、30年度は大書院とその他の部屋の耐震診断を行った。

(2) 文化財の保護

ア 文化財の調査

史跡天然記念物屋島に所在する文化財について、現状を把握することを目的として平成19年度から29年度にかけて実施していた史跡天然記念物屋島基礎調査事業について、これまでの発掘調査成果をとりまとめ、報告書を刊行した。また、市指定史跡勝賀城跡において、内容確認のための発掘調査を実施し、市民を対象とした現地見学会を実施した。

イ 文化財の保存・管理

市指定文化財木造六字尊立像保存修理事業等に助成するなど文化財管理及び保存伝承活動等に要する経費の一部助成を行うとともに、史跡地の除草等を行い文化財の保存・管理に努めた。

また、国史跡讃岐国分尼寺跡の土地を購入し、公有地化を進めた。

ウ 文化財の公開・活用

ふるさと探訪（史跡等探訪行事）を年10回開催するなど、文化財の公開・活用に努めた。

（参加者総数1,025人）

また、讃岐国分寺・讃岐国分尼寺等の情報発信のために連載講座（年間5回）をサンクリスタル高松視聴覚ホール等で開催した。（参加者総数500人）

エ 四番丁スクエアの管理

埋蔵文化財センターほか高松市コミュニティ協議会連合会、創造支援センターが置かれている四番丁スクエアの施設管理を行った。

(3) 歴史資料館事業実績

本市の歴史・考古・民俗等に関する資料の収集・保管・調査研究を行うとともに、展示等の情報発信、講座等の教育普及活動を実施した。

ア 平成30年度利用者数等

（ア）総利用者数25,942人

（イ）総観覧者数21,362人

イ 展示事業

(ア) 常設展 観覧者数 1,996 人

(イ) 企画展及び収蔵品展 開催展数 4 展 開催日数 187 日間 観覧者数 5,531 人

展覧会名	会期	観覧者数	内容
収蔵品展 「LOCAL STUDIES－郷土を愛した人が残したもの－」	4/21～6/24 (56 日間)	1,315 人 (有料 276 人)	郷土学の大切さなどを伝えるとともに、郷土書籍、個人蔵書、写真・スケッチ・研究ノート等を展示・紹介した。
第 7 5 回企画展 「たかまつ今昔－創造都市高松の原点を探る－」	7/14～9/2 (43 日間)	1,439 人 (有料 426 人)	高松が育んできた全国に誇れる文化やその歴史に関する話題を採り上げ、様々な資料を展示・紹介した。また、讃岐漆芸等の工芸やアートも展示・紹介した。
第 7 6 回企画展(史跡石清尾山古墳群国史跡追加指定記念展)「Mt. IWASEO－積石塚からみた地域の実像－」	9/22～11/11 (44 日間)	1,605 人 (有料 348 人)	4 基の積石塚が国指定史跡「石清尾山古墳群」に追加指定されたことを記念し、石清尾山古墳群及び各地の積石塚について展示・紹介した。
収蔵品展 「幕末明治万華鏡－浮世絵版画にみる幕末明治の世相－」	2/2～3/24 (44 日間)	1,172 人 (有料 335 人)	浮世絵版画の在り方に注目し、幕末から明治にかけて活躍した三代目歌川広重らの作品を展示・紹介した。

(ウ) 学習室展示 観覧者数 2,700 人(再掲。総利用者数及び総観覧者数には計上しない。) 学習室を利用した展示を行った。

(エ) ロビー展 開催展数 8 展(平成 30 年度開始分) 観覧者数 13,835 人 エントランスホールを利用したロビー展を開催した。

(オ) その他展覧会
瓦町 FLAG 内の市民交流プラザ I KODE 瓦町イベント展示コーナーを利用した展示「讃岐の方言を料理(デザイン)する－藤本誠/讃岐弁グラフィックデザイン展－」(5/1～5/16)を開催した。

ウ 教育普及活動

(ア) 講座等参加者数 4,522 人

子ども対象のプログラムほか、企画展等に関連したワークショップ等を開催し、興味関心を深める機会を設けた。

- a サンクリスタル学習 31 校(うち校外学習 1 校) 2,341 人(児童 2,216 人 引率 125 人)
サンクリスタル学習当日午後からの補助学習として、屋島学習を希望校に行っており、屋嶋城等の見学を行った。(屋島学習参加 10 校 783 人)
- b 子ども向けのプログラム 2 講座 延べ 190 人
- c 古文書講座 7 回 延べ 375 人
- d 市政出前ふれあいトーク 3 回 112 人
- e 展覧会関連イベント 14 講座 551 人
- f 博物館実習及びインターンシップ受入事業 10 日間 延べ 39 人
- g サポート事業 3 事業 延べ 258 人

h 共催事業 延べ 656 人

讃岐村塾（友の会）事業として、毎回テーマごとに大学教授等を講師として招き、講演会及び県外研修（広島県）を行った。

(イ) 資料館施設利用者数 58 人

エ 資料収集

(ア) 常設展示資料 336 点

(イ) 平成 30 年度収集資料 228 点（購入 1 点、寄贈 227 点）

(ウ) 平成 30 年度末収蔵資料 55,886 点

歴史資料 29,138 点、民俗資料 12,790 点、美術工芸資料 3,637 点、考古資料 5,481 点、郷土玩具 4,641 点、伝統工芸資料 199 点

(4) 石の民俗資料館事業実績

石と人間のかかわりの文化を観点に、資料の収集・保管・調査研究を行うとともに、展示等の情報発信、体験学習等の教育普及活動を実施した。

ア 平成 30 年度利用者数等

(ア) 総利用者数 55,995 人

(イ) 総観覧者数 18,666 人

イ 展示事業

(ア) 常設展 観覧者数 5,286 人

(イ) 企画展 開催展数 5 展 開催日数 172 日間 観覧者数 10,972 人

展 覧 会 名	会 期	観覧者数	内 容
企画展 「朝倉彫刻欄間展」	4/28～6/10 (38 日間)	728 人 (有料 263 人)	香川県の伝統工芸品に指定されている欄間彫刻を中心に、その他彫刻額や仏像など約 30 点の木彫を展示し、代々受け継がれてきた伝統ある技術を展示・紹介した。
企画展 「第 3 2 回思可牟展」	7/28～9/9 (38 日間)	1,866 人 (有料 313 人)	京都市立芸術大学の卒業生によるグループ「思可牟」の作品展。メンバーは、漆芸・陶芸・日本画等様々だが、作品が集まると不思議と調和が生まれる展覧会を開催した。
石の里のアーティストたち 「テーマ・庵治石」Part17 (屋外展示)	10/7～11/11 (32 日間)	4,490 人	庵治石の素材の良さを生かし、庵治・牟礼在住の石匠の里のアーティストたちが制作した、創造性豊かな石彫作品を展示・紹介した。
石とのコラボレーション企画 「庵治からニューヨークに渡った七人の侍展」	10/6～11/11 (32 日間)	845 人 (有料 241 人)	流政之氏とともに 1964 年に開催された世界博覧会における石彫の制作に携わった石匠塾の職人たち（通称：七人の侍）にスポットを当て、当時の彼らの活動の写真や資料などを展示・紹介した。

さぬきアートプロジェクト 「オスカーロベラス展 ～慧 眼 見えない世界～」	1/12～2/17 (32 日間)	3,043 人 (有料 236 人)	世界を舞台に活躍しているフランス人 芸術家オスカーロベラス氏の近年の作品 を中心に、庵治石の彫刻、ブロンズ、シル バー、粘土などのオブジェや版画等、約 30 点を展示・紹介した。
---------------------------------------------	----------------------	-----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) ホール展及び共催展 開催展数 8 展 開催日数 83 日間 観覧者数 2,408 人

ウ 教育普及活動

(ア) 講座等参加者数 4,242 人

a 体験学習 35 回 延べ 804 人

(a) 工作教室・防災教室・ミニジオラマ・ミニ石あかり等 14 回 193 人

(b) 展示に関連したワークショップ・イベント等 14 回 389 人

(c) 来館者の体験講座・市政出前ふれあいトーク 7 回 222 人

b 古文書講座 11 回 延べ 156 人

c 資料館コンサート等 7 回 898 人

石の民俗資料館友の会中心の資料館コンサート 5 回 (5 月・7 月・10 月・12 月・3 月)、
企画展関連コンサート 1 回、落語会 1 回を開催した。

d その他 (年間を通じ常時開催) 延べ 2,384 人

ストーンハンティング (庵治石の小石の中から天然石を採る) や石 d e ペイントなど、
遊びを通して、石と触れ合う機会を設けた。

(イ) 公園等利用者数 33,087 人

エ 資料収集

(ア) 常設展示資料 514 点

(イ) 平成 30 年度収集資料 0 点

(ウ) 平成 30 年度末収蔵資料 7,092 点

歴史資料 19 点、民俗資料 6,489 点、考古資料 3 点、自然科学資料 581 点

(5) 香南歴史民俗郷土館事業実績

高松平野南部地域の歴史民俗資料の収集・保管・調査研究を行うとともに、展示等の情報発
信、講座等の教育普及活動を実施した。

ア 平成 30 年度利用者数等

(ア) 総利用者数 30,207 人

(イ) 総観覧者数 21,522 人

イ 展示事業

(ア) 常設展 観覧者数 11,864 人

(イ) 企画展及び収蔵品展 開催展数 7 展 (平成 30 年度開始分) 開催日数 206 日間

観覧者数 7,701 人

展覧会名	会期	観覧者数	内 容
—明治生まれの画人— 三井飯山の水墨画展	3/21～4/8 (7日間) 4/1からの日数	183人 4/1からの 観覧者数	当館に収蔵している寄贈資料「三井飯山の水墨画」を展示・紹介した。
第13回 わが家のお宝展 *え〜もん・おもっしょい もん大集合!*	6/2～7/15 (38日間)	1,039人	市民から集めた自慢の品、他にない珍品などを「わが家のお宝」と題して展示・紹介した。
開館20周年記念 まちの文化財	7/21～8/26 (32日間)	1,224人	東谷農村歌舞伎、ひょうげ祭り、由佐家文書など、高松市南部に所在する指定文化財を展示・紹介した。
高松空港のむかしといま	9/1～9/24 (21日間)	929人	高松空港が2019年に開港30周年を迎えるため、高松空港が香南町にできるまでの経緯や現在の様子など、高松空港の歴史を展示・紹介した。
現代刀展 — ^{いま} 現代に伝わる日本刀の 技—	10/20～12/2 (38日間)	2,238人	昭和・平成の時代に制作された日本刀を展示・紹介した。
巡回展 戦国時代の高松 —西の香西と東の十河—	12/8～1/14 (28日間)	817人	高松市埋蔵文化財センターの巡回展「戦国時代の高松」の考古遺物等を展示・紹介した。
第18回 篆刻展	1/18～2/6 (17日間)	482人	郷土館講座「篆刻教室」の受講生の作品を展示した。
第18回 郷土の文化拓本展	2/17～3/17 (25日間)	789人	郷土館講座「拓本と表装を楽しむ」の受講生の作品を展示した。

ウ 共催展 開催展数4展 開催日数39日間 観覧者数1,957人

エ 教育普及活動

(ア) 講座等参加者数4,998人

a 郷土館講座 5講座 308人

b 夏休み子ども講座 5講座 169人

c 展示関連イベント 12講座 432人

d その他の事業 5事業 4,019人

月釜茶会、子ども茶華道教室、天守閣開放、古本まつり、もちつきを実施した。

e 出前資料館 1回 70人

(イ) 図書館等利用者数3,687人

オ 資料収集

(ア) 常設展示資料 236点

(イ) 平成30年度収集資料 0点

(ウ) 平成30年度末収蔵資料 4,616点

歴史資料 3,590点、民俗資料 407点、美術資料 8点、考古資料 120点、自然資料

126点、その他 365点

(6) 讃岐国分寺跡資料館事業実績

特別史跡讃岐国分寺跡を保護し、文化財の保存及び活用を図るとともに、歴史的意義等を説明するため展示等の情報発信、講座等の教育普及活動を実施した。

ア 平成30年度利用者数等

- (ア) 総利用者数 22,316人
- (イ) 総観覧者数 4,739人

イ 展示事業

- (ア) 常設展 観覧者 4,739人
- (イ) 企画展 開催展数 5展 開催日数 241日間 観覧者数 3,773人 (上記内数)

展覧会名	会期	観覧者数	内容
埋蔵文化財展 讃岐国府跡を探る 9	5/22～7/8 (42日間)	654人 (有料60人)	県が実施した讃岐国府跡探索事業の発掘調査成果を展示・紹介した。
北陸道の国分寺跡 ～友の会現地研修から～	7/10～9/24 (67日間)	763人 (有料58人)	資料館友の会協力のもと、全国の国分寺跡のうち、北陸道の国分寺跡・国分尼寺跡について展示・紹介した。
巡回展「戦国時代の高松－ 西の香西と東の十河－」	10/10～11/25 (41日間)	1,315人 (有料57人)	高松市内で発掘された遺跡の調査結果等を展示・紹介した。
開館25年記念展 讃岐国分寺跡の現在	12/4～1/27 (43日間)	593人 (有料38人)	開館25年を迎え、史跡整備から現在に至るまでを振り返り、展示・紹介した。
万葉の花 V	1/29～3/24 (48日間)	448人 (有料51人)	万葉集に詠まれている植物を中心に、展示・紹介した。

ウ 教育普及活動

- (ア) 講座等参加者数 1,190人
 - a 資料館講座 3講座 608人
 - b 展覧会関連イベント 1講座 40人
 - c その他事業 2事業 延べ542人

讃岐国分寺跡資料館友の会事業として講演会等、讃岐国分寺天平文化倶楽部事業として着付け支援等を実施した。

(イ) 平成30年度収集資料0点

(ウ) 史跡公園等利用者数 16,387人

第19回讃岐国分寺史跡まつりを11月3日に実施した。(参加者 5,500人)

エ 資料収集

- (ア) 常設展示資料 116点
- (イ) 平成30年度末収蔵資料 76点
 - 考古資料 76点

(7) 菊池寛記念館事業

ア 常設展

- (ア) 菊池寛の生涯と業績をグラフィック・解説映像により編年的に紹介するとともに、遺品・生原稿・著書等を展示している。
- (イ) 菊池寛の生家、上演戯曲舞台を模型で再現、東京の雑司ヶ谷の旧邸宅内の書斎を原寸復元し展示している。
- (ウ) 「芥川賞」、「直木賞」、「菊池寛賞」、「菊池寛ドラマ賞」、「香川菊池寛賞」の受賞者及び受賞作品などを紹介している。
- (エ) 菊池寛を初め、郷土にゆかりのある作家の著書、芥川賞・直木賞受賞作品や、その他大衆文学作品などが閲覧できる「研究閲覧室」を併設している。
- (オ) 常設展実績

期間 平成 28 年 4 月 1 日～29 年 3 月 31 日 入場者数 7,093 人
期間 平成 29 年 4 月 1 日～30 年 3 月 31 日 入場者数 7,287 人
期間 平成 30 年 4 月 1 日～31 年 3 月 31 日 入場者数 6,907 人

イ 菊池寛生誕 130 年・没後 70 年記念事業

(ア) 第 27 回文学展の開催 (高松市・菊池寛顕彰会 共催)

事業内容	期間	入場者数
菊池寛記念館第 27 回文学展 企画展示「菊池寛をふりかえる」	11/20～12/26	2,100 人
文学展関連行事 特別講演会、NHK高松放送局と連携した作品朗読会、 ミニ音楽コンサートなど	11/20～12/26	564 人

(イ) [新規事業] 菊池寛生誕 130 年・没後 70 年記念事業シンポジウム
(菊池寛記念館文学展実行委員会・(一財)自治総合センター 主催)

事業内容	期間	入場者数
<ふるさとと文学 2018～菊池寛の高松> ・基調映像「ある自由主義者の走馬灯～菊池寛の人・作品・世界」 ・菊池寛「閻魔堂」朗読 (中村敦夫氏) ・パネルディスカッション (阿刀田高氏、下重暁子氏ほか)	11/10	900 人

(ウ) [新規事業] 「まんがで知ろう！高松市が生んだ文豪 菊池寛」発行

郷土の偉大な文豪、菊池寛の功績を若い世代に伝えていくため、菊池寛の生涯を分かりやすくマンガで描いた冊子を発行し、市内の小、中学校及び公共施設等に配置するとともに一部有料頒布した。 A5 版 88 頁 3,000 冊発行。

(エ) [新規事業] 「きくちかん新聞」発行

菊池寛の生誕 130 年・没後 70 年を記念して、波乱万丈な菊池寛の生涯を分かりやすく新聞形式で作成した。

英訳版と共に 2 か月ごとに年 6 回発行し、市内の小・中学校及び公共施設等に配置した。

ウ 資料収集

菊池寛の遺品や寛に関する資料・図書及び菊池寛が創設した芥川賞・直木賞に関する資料・図書、その他関係資料の収集、保管及び展示を行うとともに、資料の調査研究に努め、菊池寛記念館の収蔵品の充実を図っている。

エ 菊池寛顕彰事業

(ア) 香川菊池寛賞 (高松市・高松市教育委員会・菊池寛顕彰会 共催)

郷土が生んだ文壇の大御所「菊池寛」を顕彰する事業として、また、郷土文化・文学の向上を図るため、文学作品を募集し、優秀な作品に香川菊池寛賞を授与。

- ・第54回の応募作品数 54篇
- ・受賞作品：香川菊池寛賞「冬の庭」森本 清華—
奨励賞「青春の残照」藤本 靖

(イ) 菊池寛ジュニア賞 (高松市・高松市教育委員会・菊池寛顕彰会 共催)

「菊池寛」を顕彰するとともに、市内小・中学校の児童・生徒を対象に文芸の向上を図る目的で創設。生活作文・読書感想文(「寛学」事業で配布した菊池寛児童文学小学校版、文学作品集中学校版など菊池寛の著作物を推奨)・創作作品を対象に募集、選奨し賞を授与。

- ・第27回の応募作品数 小学校の部 143篇 (学校総数31校)
中学校の部 90篇 (学校総数13校)
- ・最優秀作品 小学校の部 「ほどくのは雨」 平子 紗雪 (円座小学校6年)
中学校の部 「アイスコーヒー」 西濱 光琳 (高松第一中学校3年)

オ 文化活動事業

(ア) 文芸講座の開催(高松市・菊池寛顕彰会 共催)

地元文芸の振興を図るため、郷土で活躍されている方々を講師に迎え、毎月1回開催。

- ・期間 6月～3月(延べ10回)・参加者数 延べ人 638人

(イ) 読書感想文講座

市内小学生を対象に、読書感想文の書き方を指導。夏休み期間中2回開催

- ・開催日 7月27日・8月5日 ・参加者数26人

(ウ) 「文藝もず」第19号発行

香川菊池寛賞受賞作の全文掲載、菊池夏樹名誉館長のエッセイなど各種寄稿を多数掲載。

(エ) 朗読劇「菊池寛劇場」の開催(高松市・菊池寛顕彰会 共催)

児童・生徒を対象とした菊池寛の作品等を朗読劇や語りで公演

- ・開催日 3月9日 ・公演作品「三ビキノウサギ」「袈裟の良人」ほか
- ・入場者数 200人

(オ) サンクリスタル学習

市内の小学生を対象に歴史資料館・菊池寛記念館・図書館による体験学習を行った。

- ・参加校数 30校 ・参加児童数 2,180人

(カ) [廃止事業] 文学探訪(高松市・菊池寛顕彰会 共催)

2 令和元年度事業実施予定

事業名	事業内容	予算額(千円)	備考
玉藻公園の管理運営	指定管理者（香川県造園事業協同組合）に委託して、効果的な管理運営に努める。	63,708	一部繰越 9,993
埋蔵文化財調査事業 （試掘・確認調査）	市内の埋蔵文化財包蔵地等及び周辺地での開発事業に対応し、試掘調査等を実施して文化財保護に必要なデータを収集するとともに、史跡等において確認調査を実施して、史跡等の整備・公開活用に必要なデータ収集を行う。	20,247	
埋蔵文化財調査事業 （発掘調査）	新駅等整備、多肥小学校校舎建設、川島こども園建設等の公共工事に伴う事前の発掘調査、及び香川県農業試験場跡地等整備、市道仏生山町円座線建設、東山崎51号線建設、都市計画道路高松海岸線建設、学校給食センター建設、放課後児童クラブ建設、多肥小学校校舎等建設等に伴う整理作業を行う。	42,650 （事業課計上 予算）	一部繰越 5,481
史跡石清尾山古墳群保存・整備事業	古墳群を適切に保存し、活用するため、保存活用計画の作成に向けた調査等の2年次目を行い保存活用計画書としてまとめる。	6,336	一部繰越 4,263
史跡天然記念物屋島保存・整備事業	屋島活性化基本構想に基づき、史跡・名勝・天然記念物の各分野の調査を実施する。令和元年度は石切丁場跡の調査を行う。	4,441	
埋蔵文化財公開活用事業	市内に所在する埋蔵文化財の公開と活用を目的とし、連載講座の開催、パンフレット制作等を実施する。また、高松藩主松平家墓所史跡指定記念シンポジウム及び関連イベントを開催する。	2,730	
史跡讃岐国分寺・国分尼寺跡保存・整備事業	特別史跡讃岐国分寺跡及び史跡讃岐国分尼寺跡の土地公有化を進める。	30,094	一部繰越 9,545
高松城跡整備事業	桜御門復元整備事業を行うとともに、旭橋北側石垣工事及び重要文化財披雲閣耐震補強に向けた耐震診断及び蘇鉄の間の耐震補強実施設計を実施する。	115,649	一部繰越 67,482
文化財保存活用推進事業	指定文化財の管理・修理・伝承公開事業に対する補助金の支出、本市が所有する史跡地の除草及び施設修繕等を実施する。また、ふるさと探訪等文化財学習会を開催する。	18,048	

事業名	事業内容	予算額(千円)	備考
四番丁スクエア管理運営事業	四番丁スクエアの施設管理とともに、埋蔵文化財センターの業務運営を行う。	10,009	
歴史資料館 常設展・企画展等事業	歴史資料館等が所蔵する貴重な資料による常設展・企画展・収蔵品展を開催するとともに、資料館エントランスホールを利用したロビー展、学習室を利用した展示を行う。	5,341	
歴史資料館 教育普及活動事業	複合館（中央図書館・菊池寛記念館・歴史資料館）の特色を生かし、施設利用と学習方法を学ぶサンクリスタル学習を実施するとともに、企画展に関連した講座やワークショップ、古文書講座を開催する。また、展示解説等の資料館事業をサポートする資料館サポーターによる活動を実施する。	4,444	
歴史資料館 資料整備事業	本市の歴史・民俗・考古等に関する資料収集を行うとともに、ボランティアの協力による収蔵資料の解読とデータ化を進め、収蔵品情報システムの運用により、収蔵品データをインターネットで公開する。	2,036	
石の民俗資料館 企画展・ホール展事業	歴史から文化芸術に至る幅広いテーマによる企画展を開催するとともに、地元文化協会との共催によるホール展を開催する。	1,450	
石の民俗資料館 普及活動事業	資料館講座・出前講座・古文書講座等を開催するとともに、石を使った工作教室を実施するなど、体験学習等の遊びを通して石と触れ合う機会を提供する。	84	
香南歴史民俗郷土館 企画展・講座等事業	歴史から文化芸術に至る幅広いテーマによる企画展を開催するとともに、企画展に関連した講座を開催し、夏休み期間中には子ども向けの講座を開催する。	1,082	
讃岐国分寺跡資料館 企画展・講座等事業	歴史を中心にしたテーマによる企画展を開催するとともに、子どもを対象に「ふるさと文化財探偵団」と題した古代体験講座、市民を対象にした歴史講座等を開催する。	464	
菊池寛記念館 文芸講座開催事業	地域文化の向上、文芸の振興を図るため、郷土等で活躍されている文化人を講師に招き6月開講、毎月1回年10回の講座を開催。	81	
菊池寛記念館 読書感想文講座開催事業	小学生を対象に、菊池寛の児童読物を読んだの読書感想文の書き方を指導。夏休み期間中に2回開催。	16	
菊池寛記念館 菊池寛作品朗読劇開催事業	親子で菊池寛の作品に親しむとともに、文学に触れる機会のある場として、児童・生徒を対象に菊池寛の作品等の朗読劇を開催。	35	

事業名	事業内容	予算額(千円)	備考
菊池寛記念館 文藝もず発行事業	文化・文学の向上の発信元として、また記念館の館報の役割も担い平成12年から毎年刊行している。香川菊池寛賞受賞作及び菊池寛の児童読物、寄稿などを掲載。(第20号、約230ページ、400冊印刷)	249	
菊池寛記念館 菊池寛ジュニア賞受賞作品集作成・配布事業	前年度の菊池寛ジュニア賞の受賞作品を1冊の作品集にし、市内の各小・中学校、図書館等に配布。(約140ページ、400冊印刷)	184	
菊池寛記念館 第55回香川菊池寛賞事業	郷土が生んだ文壇の大御所、菊池寛を顕彰する事業として、また郷土の文化・文学の向上を図るため昭和40年に創設された。毎年、文学作品を募集し、優秀な作品に対して香川菊池寛賞及び奨励賞を授与。	880	
菊池寛記念館 第28回文学展等開催事業(企画展示、関連行事)	第28回文学展「文学の怖い絵展」を令和元年7月27日～9月1日に開催。 古今の文豪が手がけた怪談を紹介し、日本文学の奥深い魅力に親しんでもらうことを目的に一流の絵師、イラストレーターによる装画や挿絵も展示。 関連行事として、特別講演会、怪談会、朗読、演奏会、寄席などを実施する。	4,004	
菊池寛記念館 菊池寛顕彰会事業 (菊池寛ジュニア賞事業など)	菊池寛顕彰会は菊池寛が文芸界に貢献し文化の向上につくした偉大な業績を顕彰することにより、郷土の文芸の振興、文化の向上に寄与する事業に取り組んでいる。 特に、市内の小・中学校に在籍する児童・生徒を対象に文芸の向上を図るため、文学作品を募集・選奨し、賞を贈呈している市と共催の「菊池寛ジュニア賞事業」は、児童・生徒の文学活動の発展に大きく寄与しており、令和元年度も実施する。	265	

〔スポーツ振興課〕

1 平成30年度事業実施状況

(1) スポーツ・レクリエーション活動の推進

ア 生涯スポーツの推進

平成30年度は、幼児から高齢者まですべての市民が、いつでも、どこでも、気軽楽しめる生涯スポーツの普及や各種のスポーツ事業を後援した。

(ア) 主催、共催事業（30年度）

種 目	概 要	参加者 (人)
登 山 学 校	登山知識の講座	延べ 1,120
各 種 大 会 等	屋島GENPEIリレーマラソン（4月） 「夢を力に2018」サッカー日本代表戦パブリックビューイング（5月） 高松市50歳以上男子ファーストピッチソフトボール大会（5月） 高松スポーツカーニバル2018（5月） さわやかママさんバレーボール大会（6月） サンポート高松トライアスロン大会（7月）荒天のため中止 市民遠泳大会（7月） 高松市ヨット競技場オープニングセレモニー（7月） 全国中学校ヨット選手権大会（7月） 高松市立りんくうスポーツ公園オープニングセレモニー（8月） 高松市立りんくうスポーツ公園オープン記念 第1回 U-10 高松南部交流少年サッカー大会（8月） 第29回日本パラ陸上競技選手権大会（9月） 高松市民スポーツフェスティバル トリムの祭典（10月） 高松ファミリー&クォーターマラソン inAJI（10月） 高松市60歳以上男子スローピッチソフトボール大会（11月） さわやかママさんソフトボール大会（11月） 高松市さわやかドッジボール大会（12月） SOMPOボールゲームフェスタin高松（1月） 高松アゼリアカップ高校選抜ソフトテニス国際大会（2月） 高松市ダイヤゾーン・ボール大会（3月） 高松市長杯高松室内陸上競技大会（3月）	延べ 21,118

(イ) 後援事業

平成30年度は、第58回高松市民早朝野球大会や各種高松市長杯など96事業を後援した。

イ 情報の提供

「広報たかまつ」(毎月1日、15日号)や高松ケーブルテレビのスポーツコーナーで周知に努めたほか、報道機関への情報提供による広報など、多岐にわたる広報活動を展開し、効果的な情報提供に努めた。

ウ スポーツ施設の予約管理・案内

かがわ電子自治体システムを利用して、スポーツ施設の予約管理・案内のシステム化を図り、利用施設の窓口のみならず、公衆端末、インターネット、携帯サイト等による利用申込

みを推進し、利用者の利便を図った。

エ 団体の育成

競技スポーツの振興や指導者の養成・資質の向上を図り、また、団体生活の中で健全な青少年を育成するなど、地域住民の健康づくりや地域のコミュニティづくりに寄与し、市民の健康・体力づくり運動を推進するため、それぞれの団体の育成を通じてスポーツの振興を図った。

なお、各スポーツ関係団体において様々な活動を展開しているが、市民の多様化するニーズに即した効率的・効果的な施策の展開が求められていることを踏まえ、高松市体育協会、高松市スポーツ少年団、高松市地区体育協会連絡協議会、高松市体力づくり市民会議及び(公財)高松市スポーツ振興事業団並びに市で構成する「高松市スポーツ団体一元化設立準備委員会」において協議・検討した結果、新たな組織として、「(公財)高松市スポーツ協会」が平成30年4月1日付けで発足した。

(ア) 高松市スポーツ推進委員

スポーツ振興法に基づき、昭和37年に設置された。平成23年にスポーツ基本法が施行され、名称が体育指導委員からスポーツ推進委員に変更され、現在、校(地)区選出委員78人(欠員30人)、学識経験者6人、合計84人で構成している。

校(地)区選出委員は、各校区におけるスポーツ・体力づくりの中心的指導的存在で、その活動は市民の声の実践者として定着している。特に、学校体育施設開放事業(小学校)の推進者として地元と市とのパイプ役となり、自主管理運営方式を軌道にのせた功績は大きい。また、各種スポーツ・体力づくり運動の普及推進のため、大会、教室、講習会を市民の誰もが参加できるように企画運営し、これらの活動を通じて、自主運営組織を次々に誕生させている。

(イ) (公財)高松市スポーツ協会競技スポーツ専門部(32団体)

旧高松市体育協会。体育を振興して市民体育の向上を図るため、昭和34年に設立。各種競技スポーツの振興、競技力向上に努めるだけでなく、指導者を育成し、資質の向上を図るとともに各団体が自主運営できるように指導している。

(ウ) (公財)高松市スポーツ協会コミュニティスポーツ専門部(45団体)

旧高松市地区体育協会連絡協議会。地域住民団体の健康づくり、体力づくりを図り、地域のコミュニティづくりに寄与することを目的とする自主運営団体で、現在、45地区体協がある。

運営組織は、スポーツ・体力づくり関係団体のみならず、地区の各種団体(自治会、老人会その他社会教育関係団体等)で構成し、学校体育施設開放運営委員会と連携を保ちながら、地域住民の誰もが継続的にスポーツ・体力づくり運動ができるようなプログラムづくりに努めている。

(エ) (公財)高松市スポーツ協会健康・体力づくり専門部(17団体)

旧高松市体力づくり市民会議。市民の健康・体力づくり運動を推進して、健康福祉都市を建設することを目的に、昭和51年に体力づくり関係団体の代表者をもって設立。体力づくりの指導者や団体の育成に努め、目的達成のための各種事業を展開している。

(オ) (公財) 高松市スポーツ協会高松市スポーツ少年団 (178180団体)

東京オリンピック開催を記念して、昭和39年に設立されたもので、日常の団体生活の中で健全な青少年を育成するとともに、地域における青少年を中心とした住民スポーツの組織を作ることを目的としている。高松市では、昭和39年に設立、現在、180団体で、男子団員1,938人、女子団員990人、計2,928人、指導者894人が登録している。

オ 指導者の養成

指導者の養成・活用を図るため、平成6年度に「高松市スポーツリーダーシステム整備計画」を策定し、7年度から3カ年計画でシステム整備を行った。スポーツリーダーシステムができて、10年余り経過したことにより、平成22年、23年にかけて高松市スポーツ推進審議会において見直しを行い、平成24年度からは次の項目を中心に、指導者の養成に努めた。

(ア) 現有リーダーに対する知識・技能の向上……スポーツ推進委員等への研修事業の実施

(イ) リーダーの後継者の育成……地域スポーツリーダー養成教室の開催

また、平成28年度からは、「高松市スポーツ推進計画(28年3月策定)」に基づき、市民一人一人が、年齢や体力などに応じて、スポーツに親しむことができるよう、一定の資格を有したスポーツ指導者を登録するとともに、効果的に活用するシステム「高松市アドバイザースポーツシステム(通称:TASS(タス))」の構築を、高松市体育協会との連携により開始し、認定指導者講習会(4回開催)の受講修了者121人をTASS認定指導者として登録した。さらに、29年度では、認定指導者講習会を2回開催し、受講修了者62人を新たに登録するとともに、モデル校への派遣事業として、小学校課外授業(水泳、陸上)や体育授業(器械体操、マット運動)において指導を行った。

また、30年度の登録者数は211人であり、小学校課外授業(水泳、陸上)や体育事業(器械体操)において、延べ86回派遣した。

(2) スポーツイベントの振興

市民のスポーツ・レクリエーション活動に親しむ機運の醸成を図るため、国際的・全国的な大会などスポーツイベントの振興に努めた。

ア 国際・全国大会の開催

国際的・全国的なスポーツ大会を開催し、スポーツ人口の増加と競技力向上を図る。

(ア) NTT ASTCトライアスロンアジアカップ

サンポート高松トライアスロン～瀬戸内国際体育祭～

期 日 平成30年7月7日～8日

会 場 サンポート高松周辺及び中央通り

参加エントリー数 746人(天候不良により中止)

(イ) 第29回日本パラ陸上競技選手権大会

期 日 平成30年9月1日～2日

会 場 屋島レクザムフィールド

参加者数 307人(エントリー数)

(ウ) 第32回高松アゼリアカップ高校選抜ソフトテニス国際大会

期 日 平成31年2月9日～10日

会 場 高松市総合体育館

参加者数 372人

イ 障がい者スポーツ

障がい者スポーツの振興を図るため、障がい者スポーツ大会を誘致し、競技人口の拡大に取り組むとともに、パラアスリートと子どもとの交流事業や大会関連イベント等による心のバリアフリーの醸成を高めるため、日本パラ陸上競技選手権大会では、障がい者スポーツの体験イベントの実施や市内小学校10校においてパラアスリートによるスポーツ義足体験や講演などを実施した。

障がい者スポーツの振興に関するイベント件数 22件

ウ 高松市民スポーツフェスティバル

本市の中核的スポーツ団体の協力を得て、市民が生涯にわたり健康増進と体力づくりができるよう、市民総参加型のスポーツフェスティバルを開催した。

事業内容としては、各小学校区の代表選手による「校区対抗競技大会」、市を6つのブロックに分けた対抗戦である「水泳競技大会」のほか、市民の誰もが気軽に参加できる「トリムの祭典」を実施した。

なお、「校区対抗競技大会」「水泳競技大会」は平成29年度をもって終了し、高松市民スポーツフェスティバルも平成30年度をもって廃止した。

また、(公財)高松市スポーツ協会と連携を図り、高松市民スポーツフェスティバルに代わる市民参加型のスポーツ・レクリエーションイベントとして「高松市民スポーツ・レクリエーション」を構築し、平成31年度から事業を開始することとなった。

エ ファミリー&クォーターマラソン in A J I

期 日 平成30年10月28日

会 場 庵治町

参加エントリー数 1,466人

(3) スポーツ・レクリエーション施設の整備・管理運営

ア スポーツ施設

平成18年4月から指定管理者制度を導入し、現在、体育館、グラウンド、庭球場、プールなど49施設において、(公財)高松市スポーツ協会が、平成17年12月から健康増進温浴施設ループしおのえにおいて、シンコースポーツ・四電ビジネスグループが、平成29年4月から屋島レクザムフィールドにおいて、四電工グループ(株式会社四電工・太平ビルサービス株式会社・長谷川体育施設株式会社)が、それぞれ指定管理者として管理運営を行っている。

また、スポーツ施設の使用料については、平成17年度の近隣6町との合併により、旧市内の施設と合併町の施設において料金の格差があるなどの課題があったことから、平成22

年6月議会において、高松市スポーツ施設条例等の一部改正を行い、受益者負担の原則と公平性の確保の視点に基づき、施設の維持管理費や近隣施設の料金水準等を勘案する中でスポーツ施設使用料等の見直しを実施した。新料金は、平成23年4月から適用している。

なお、平成27年4月から使用料が指定管理者の収入となる利用料金制を導入している。

また、屋島陸上競技場については、平成20年4月1日に香川県から移管を受け、管理運営を行っていたが、施設の老朽化が著しく、耐震性など安全面に問題があることから、平成24年10月末をもって閉場し、再整備工事を行っていたが、平成29年3月に完成し、平成29年4月23日にリニューアルオープンした。

ヨット競技場については、老朽化していることから、本市のマリンスポーツの拠点等として、平成27年度から再整備工事を行っていたが、平成30年3月に完成し、平成30年7月1日に全施設が供用開始した。

南部地域スポーツ施設（仮称）については、施設名称が高松市立りんくうスポーツ公園に決定し、平成28年7月から整備工事を行っていたが、平成30年7月に完成し、平成30年8月4日に供用開始した。

イ 学校体育施設開放事業

この事業は、昭和40年、子どもたちに安全な遊び場を提供しようとの配慮から四番丁小学校において実施。これが契機となって、昭和44年春から市街区域の4小学校を開放し、逐次指定校を増し、現在では市内全小学校となっている。

一方、一般市民のスポーツ振興をねらいとする学校体育施設開放事業としては、昭和50年に、「高松市学校体育施設開放規則」を制定し、市内全小学校の体育施設を自主管理方式で開放するとともに、中学校については、地域性、施設面積等を勘案して市教委直属の指定校方式でこの事業を推進している。

平成30年度開放状況は、小学校55校、中学校15校となっている。

(ア) 市内小学校の体育施設開放

各校区において学校体育施設開放運営委員会が設置され、自主的に運営。

(イ) 中学校及び高等学校の体育施設開放

市教委の登録を受けたグループを対象に、抽選方式により、市教委運営。

2 令和元年度事業実施予定

事業名	事業の内容	予算額 (千円)	備考
高松市民スポーツ・レクリエーション事業	本市の中核的スポーツ団体の協力を得て、市民が生涯にわたり健康増進と体力づくりができるよう、市民総参加型のスポーツ・レクリエーションイベントを開催する。内容としては、5月に仏生山公園で開催している「高松スポーツカーニバル」、10月に中央公園で開催している「トリムの祭典」に加え、2月に高松市総合体育館及びその周辺で「高松スポーツ・健康感謝祭」を開催する予定としている。また、市民の健康増進及び高松市スポーツ推進計画で定める2023年度における成人の週1回以上のスポーツ実施率70%の目標達成に向け、上記イベント以外にも効果的なイベントの企画・実施も行っていく。	2,207	
障がい者スポーツ推進事業	障がい者のスポーツ推進を図るため、本市スポーツ施設の環境整備や障がい者スポーツ大会の誘致・開催し、障がい者スポーツ人口の増大と競技力向上に取り組む。	3,008	
地域密着型トップスポーツチーム支援事業	本市から全国への情報発信を始め、市民のふるさと意識の高揚や、スポーツ振興を通じた市民の健康増進等を図るため、地域密着型トップスポーツチームを支援する。	15,643	
学校体育施設開放推進・整備事業	市民の体力づくりと健康の増進を図るため、市民が身近に利用できるスポーツ・レクリエーションの場として、学校の体育施設を学校教育活動に留意する中で開放する。 併せて、学校体育施設を開放するため設置しているナイター照明等を維持修繕する。	18,277	
スポーツ施設管理運営・整備事業	りんくうスポーツ公園を加えた市内の49施設については、(公財)高松市スポーツ協会、健康増進温浴施設「ループしおのえ」については、シンコースポーツ・四電ビジネスグループ、高松市屋島競技場については、四電工グループ(株式会社四電工・太平ビルサービス株式会社・長谷川体育施設株式会社)を指定管理者として指定し、利用者の利便性の向上と施設の利用促進に努め、市民スポーツの振興・充実を図る。合わせて、施設の老朽化等に伴う改修工事等を行う。	817,502	
スポーツ施設予約管理・案内事業	市民の健康増進と体力づくりを支援するため、各種の情報提供や施設予約管理機能を有する「かがわ電子自治体システム施設予約申込サービス」を利用したスポーツ施設の効果的な予約管理・案内に努める。	15,411	

事業名	事業の内容	予算額 (千円)	備考
東京 2020 オリンピック・パラリンピック関連事業	<p>東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、機運を盛り上げるとともに、市民のスポーツに対する関心や興味をより一層高めるため、事前合宿の誘致を始め、オリンピック・パラリンピアンと市民との交流に取り組む。</p> <p>併せて来年の聖火リレー実施に向けて、準備を進めていく。</p>	12,000	

〔美術館美術課〕

1 平成30年度事業実施状況

(1) 高松市美術館

高松市美術館の利用者数 111,045 人

ア 展覧会

美術館主催展として特別展及び常設展を開催するとともに、貸館として一般展示室・企画展示室及び市民ギャラリーを美術団体・個人や小グループ等の利用に供した。

(ア) 展覧会実績

- a 開催展延数 57 展（貸館を含む。）
- b 開催延日数 725 日間
- c 入場者延数 89,694 人（1日平均 123.7 人）

(イ) 特別展（主催展）

- a 開催展延数 5 展
- b 開催延日数 186 日間
- c 入場者延数 22,950 人（1日平均 123.4 人）

展覧会名	会期	日数	入場者数 (人)
京の美人画 100年の系譜	4/21(土)～6/3(日)	38日	7,024
高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.07 「つながりかえる夏」	7/27(金)～9/2(日)	33日	4,981
音丸耕堂展 華麗なる彫漆世界	9/15(土)～10/21(日)	32日	4,220
起点としての80年代	11/3(土・祝)～12/16(日)	38日	2,603
やなぎみわ展 神話機械	平成31年2/2(土)～3/24(日) ただし、内覧会を2/1(金)に開催	45日	4,122 (内覧会140人を含む)
		186日	22,950

(ウ) 常設展

美術館の所蔵品の中から、毎回テーマを設定して展示替えを行った。

a 常設展示室1（現代の美術）

戦後の日本の現代美術、これに関連する20世紀以降の世界の美術を順次展示した。

b 常設展示室2（讃岐漆芸と金工）

玉楮象谷に始まる讃岐漆芸を中心に、技法やテーマに沿って展示した。

c 開催状況

開催展延数4展 開催延日数 290日間 入場者延数 17,153人（1日平均59.1人）

イ 開館 30 周年記念イベント「新規」

イベント名	開催日場所等	参加者数(人)
三輪眞弘による高松市美術館開館 30 周年祝賀演奏会 「愛の讃歌」	7/14(土) 1 階エントランスホール	117
高松丸亀町商店街振興組合連携事業 「かえっこフェスティバル」	7/15(日)～8/11(土) 1 階エントランスホール・ 高松丸亀町商店街	1,200
メッセージアート	8/4(土) 1 階エントランスホール	101
アーティスト×市長×館長トークショー 「つながり・つなげる美術館を目指して」	8/11(土) 1 階講堂	96
アニメーション上映 「井上涼 歌う美術館」	9/29(土)～10/8(月・祝) 2 階展示室	1,337
ワークショップ 「井上涼とぬりえアニメをつくろう！」	9/29(土) 1 階講堂	24
コンサート 「秋のお楽しみコンサート in 高松」	10/6(土) 2 階展示室	357
高松丸亀町商店街振興組合連携事業 「ハロウィンと芸術士と美術館！ハロウィン・ダンス & ウォークショー」	10/28(日) 1 階エントランスホール	600
原田マハ トークショー「アートでなければなんでも ない 80's アートの覚醒」	11/3(土・祝) 1 階講堂	170
「収蔵品図録 V」刊行	3/31(日)	—
合計		4,002

ウ 貸館

(ア) 貸館実績

a 一般・企画展示室

開催展数 15 展 開催日数 69 日間 入場者数 24,238 人 (1 日平均 351.3 人)

b 市民ギャラリー

開催展数 33 展 開催日数 181 日間 入場者数 21,351 人 (1 日平均 118.0 人)

エ 講演会・美術講座等

主催特別展の開催に併せて、展示のテーマに沿った記念講演会やトーク等を開催した。また、小学生を対象とした「子どものアトリエ」や各種ワークショップ等を開催した。

(ア) 記念講演会等

開催日	講師・出演者	内容	参加者数 (人)
4/21(土)	中谷至宏 (京都市美術館学芸員)	記念講演会 1 「近代京都の美人と「美人画」」	60
5/20(日)	森山知己 (日本画家)	記念講演会 2 「美人画で見つける日本画の話」	80
7/28(土)	下道基行、千葉尚実、山城大督 (特別展出品作家)	アーティストトーク	48
9/15(土)	北岡省三 (漆芸家)	記念講演会 1 「弟子たちからみた音丸耕堂」	90
10/7(日)	松本達弥 (漆芸家)	記念講演会 2 「音丸耕堂作品の修復報告と文化財修復の重要性について」	50
3/9(土)	やなぎみわ (特別展出品作家)	トークショー	125
参加延べ人数			453

(イ) 館長講座「まぶさび教室」

開催回数 10回 参加延べ人数 421人

(ウ) ギャラリートーク (当館学芸員等による)

a 特別展 開催回数7回 参加延べ人数 205人 (内数)

b 常設展 開催回数6回 参加延べ人数 116人 (内数)

(エ) ワークショップ

開催回数 10回 参加延べ人数 335人

(オ) イベント (公開制作・パフォーマンス)

開催回数 6回 参加延べ人数 538人

(カ) 子どものアトリエ

開催回数 4回 参加延べ人数 85人

(キ) アートで遊ぼう！

鑑賞教育の充実を図るための鑑賞プログラム「アートで遊ぼう！」を実施し、ゲームや遊びを取り入れながら、当館職員とともに美術作品を鑑賞した。

開催回数 4回 参加延べ人数 13人

(ク) ふらっとアート

子どもを始め、来館者が気軽にアートを楽しむことのできる空間として、リニューアルにより新設された「こども+ (こどもアートスペース)」において、アートプログラムを開催。毎週木・土曜日の12:00から16:00まで開設し、延べ1,765人(対象:小学生以下、参加費:無料)が参加した。

内容
ひも通しであそぼう！/折染め体験をしよう
くじびき！つくるんアート
おばけに大変身！ハロウィンのお面をつくろう！/ビー玉ころころアート！
ビリビリ！段ボールアート！/ぺたぺた♪ねんどであそぼう！
つるし飾りをつくろう！

(ケ) 出前講座

開催回数 8回 参加延べ人数 217人

オ 施設の提供

美術館の講堂を講演会・コンサート等の会場に、講座室を創作活動の場として利用に供した。
また、美術図書コーナーを一般利用者に開放した。

(※有人開室日のみ)

施設名	利用回数等	利用人数(人)
講堂	73回	1,592
講座室	631回	8,721
美術図書コーナー	263日	4,255 (※)

カ 美術資料の収集

<美術品>

(単位 点)

区分	洋画	日本画	彫刻	工芸	書	計	
平成30年度購入	6	—	2	2	—	10	
平成30年度寄贈	4	—	2	3	—	9	
平成30年度合計	10	—	4	5	—	19	
累計	790	46	260	530	16	1,642	
内訳	購入	640	24	229	394	12	1,299
	寄贈	150	22	31	136	4	343

<図書>

(単位 冊)

区分	購入	寄贈	除籍	計	累計
美術図書	96	329	—	425	32,188
展覧会図録	5	493	—	498	18,649
合計	101	822	—	923	50,837

キ 美術作品解説ボランティアの設置

市民の美術活動と展覧会観覧者の利便を図るため、美術作品解説ボランティア c i v i (シヴィ) の活動を支援した。

ギャラリートーク開催実績 開催回数 44回 参加人数 1,030人(内数)

ク 美術館学習等

サンクリスタル学習等と連携させた美術館での鑑賞・施設学習を実施した。

サンクリスタル学習参加校のうちで、引き続いて美術館での学習を希望する小学校を受け入れ(サンクリスタル高松-美術館間の交通費を負担)、展覧会の団体鑑賞や施設見学、アートゲームなどの活動を行った。

6月26日から2月21日まで、参加校：9小学校 延べ人数：639人(引率者を含む)

(参考：サンクリスタル学習以外の美術館学習 参加校35校、延べ1,166人)

ケ 博物館実習・インターンシップ・職場体験等

博物館実習の実施については、京都精華大学ほか4大学から博物館実習生9名を受け入れた(7/31~8/5)。インターンシップ実習生4名(8/15~8/19)、香川県立高松工芸高校インターンシップ5名(7/4~7/6、7/9)、香川県立三木高校インターンシップ1名(7/29、8/4、8/11)、高松短期大学の学生ボランティア延べ31名(10月~12月)をそれぞれ受け入れた。中学生の職場体験としては、高松市立龍雲中学校ほか11校から延べ40名の中学生を受け入れた。(9月~11月)

また、展示パートナー81人、「かえっこフェスティバル」のボランティア40人の参加があった。

コ 美術館の日

「美術館の日」(8月第1土曜日8月4日)に、展覧会の観覧料を無料としたほか、「ふらっとアート」など、市民が気軽に美術館を訪れて楽しめる催しを開催した。

特別展観覧者810人、展示室での鑑賞を促す鑑賞カード利用者72人、ふらっとアート参加者99人、メッセージアート参加者101人などの来館者(全て内数)があった。

サ 芸術的催物

(ア) ミニコンサート等

特別展会期中に、県内演奏家等によるミニコンサート等を開催した。

ミニコンサート等開催回数 5回 参加延べ人数 593人

(イ) 美術館友の会との共催によるコンサートの開催

友の会ふれあいコンサート 1回 参加延べ人数 117人

シ 学校との連携事業

開催日	出席者	内容	開催場所	参加者数(人)
7/20(金)、 21(土)、 22(日)、 23(月)	高松工芸高等学校25人、 附属高松中学校8人、 紫雲中学校5人、 下笠居中学校10人、 龍雲中学校22人、 教員5人、一般6人	「藤浩志 作品《1億5000万年前から受け継がれる》展示ワークショップ」 藤浩志とともに、プラスチック製のおもちゃを接着、並べるなどし、作品を完成させた。	2階 展示室	延べ106

11/9(金)、 10(土)	高松工芸高校 1 人	特別展「起点としての 80 年代」関連イベント日比野克彦《J-TRIP 茶室》公開制作においてアシスタントをした。	1 階 エントラン スホール	1
参加延べ人数				107

ス 高松市美術館サポートショップ事業

会期中の特別展チケットの半券、又は有効期間中の定期観覧券（年間パスポート）を提示すると、参加店舗（134 店舗）で割引などの特典を受けることができる高松市美術館サポートショップ事業を実施した。

セ 美術館友の会イベント

友の会スペシャルイベントとして、美術館主催の特別展に併せて、ワークショップ等を開催した。開催回数 3 回、参加延べ人数 69 人

また、友の会美術鑑賞旅行を行った。開催回数 2 回、参加延べ人数 54 人

(2) 高松市塩江美術館

高松市塩江美術館の利用者数 5,095 人

ア 展覧会

美術館企画展及び常設展を開催するとともに、貸館として企画展示室及びホールを、美術団体・個人や小グループ等の利用に供した。

平成30年8月13日から平成31年3月31日までの約7か月間、施設設備等改修工事のため休館した。

(ア) 展覧会実績

a 開催展延数 4 展（内訳 企画 3 展・常設 1 展）

b 開催延日数 205 日間

c 入場者延数 4,616 人（1 日平均 22.5 人）

(イ) 企画展

開催展数：3 展 開催日数：94 日間 入場者数：2,128 人（1 日平均 22.6 人）

展覧会名		会期	日数	入場者数	展覧会の内容
1	大地の贈り物展	4/3(火) ～5/6(日)	30 日	570 人	植物の持つ生命力や儂さ、花の形、色など様々な植物の魅力を暖かみのある木版画で表現した作品約 37 点を紹介。
2	富本七絵展 —情景の意志—	5/26(土) ～7/1(日)	32 日	845 人	自然の風景をモチーフとして、風景の中の木々や草花から溢れる生命の循環を鮮やかな色彩で表現した作品約 22 点を紹介。
3	S t o r y —これまで そしてこれから—	7/7(土) ～8/12(日)	32 日	713 人	開館 24 年を迎えて改修工事前に、開館以来 300 展を越える展覧会をとおして館の歩みを振り返る収蔵作品やリーフレット等を展示して紹介。

(ウ) 常設展

美術館の所蔵品のうち、テーマを設定して作品を展示した。

開催状況 展示替え 1回 開催日数 111日間 入場者数 2,488人 平均 22.4人

イ 美術講座

陶芸教室、風鈴作り教室に加え、企画展に合わせたワークショップ等6講座を開講した。

(延べ201人参加)

ウ 美術館の日(8月4日)

美術館の観覧料免除や親子で楽しめるイベントなどを実施し、市民が気軽に美術館を訪れて楽しめる催しを開催した。

入館者数及びワークショップ参加者 212人(内数)

エ 博物館実習生 11人

オ 芸術的催し物

コンサートなど他分野におけるアートイベントを開催。

タイトル	開催日	料金	内容	入場者数(人)
アコースティック コンサート	7/29(日) 18:30~	500円	地元で活動しているカン トリーミュージックのデ ュオの演奏を開催	※台風接近のため中止

カ 施設の提供

美術館の企画展示室・ホールを作品展示の場として利用に供している。

場所	行事名	会期	入場者数	内容
企画展示室	戸田由美子 作品展 INSPIRING	5/12(土)~5/20(日) 搬入5/11・搬出5/20 9日間(休館日除く)	267人	高松市在住の戸田由 美子による人物の写 真展。入場料無料。

キ 美術資料の収集

(単位 点)

区分		洋画等	日本画	彫刻	工芸	書	その他	計
平成30年度 購入		—	—	—	—	—	—	—
平成30年度 寄贈		—	—	—	—	—	—	—
平成30年度 合計		—	—	—	—	—	—	—
累計		665	7	12	13	119	453	1,269
内訳	購入	46	—	6	7	—	1	60
	寄贈	619	7	6	6	119	452	1,209

*その他(写真・熊野俊一資料・藤澤東咳関連書籍・芸術祭作品)

2 令和元年度事業実施予定

事業名	事業の内容	予算額(千円)
展覧会開催事業	高松市美術館において、常設展を開催し、国内外の優れた美術作品を鑑賞する機会を設け、学芸員や美術作品解説ボランティアが作品を解説するとともに、講演会等の関連イベントを実施する。また、塩江美術館においても、企画展、常設展を開催し、地元ゆかりのアーティストの作品を鑑賞する機会とともに、学校訪問ワークショップなどを実施する。	69,857
ミュージアムコンサート開催事業	高松市美術館、塩江美術館において、特別展等に関連したミニコンサート等を開催する。	55
「子どものアトリエ」開催事業	小・中学生を対象として、美術作家等による造形的なワークショップや地域性を活かした講座を開催し、美術的感性と創造性の涵養を図る。	93
美術教育普及事業	出品作家等を講師にしたワークショップを開催し、市民の芸術への関心と認識を深める。また、小・中学生を対象に、美術館学習などの機会を利用して鑑賞授業を実施するほか、「こども+」において未就学児はじめ世代を超えた教育普及プログラムを展開する。	1,281
美術資料収集事業	高松市美術館では、美術品等取得方針に基づき優れた美術品等を系統的に収集する。また、美術図書などの二次資料を継続的に収集するとともに、広く公開しその活用に努める。また、塩江美術館においても県出身で県内外にゆかりのある作家などの作品を収集していく。	12,316
「美術館の日」事業	市民がより美術に親しみ、豊かな心を育めるよう、8月の第1土曜日（8月3日）を「美術館の日」と定め、多くの市民が集い、親しみ、にぎわう美術館となるよう、観覧料の免除や親子で楽しめるイベントなどを実施する。	—
「高松市美術館サポートショップ」事業	商店街等周辺店舗と連携し、参加店舗で様々な特典が受けられ、また、美術館との相互割引を行う「高松市美術館サポートショップ」事業を実施する。	181